

14歳男児の訪問における園芸療法による自律の一助

増田寛司・内田雅子・若野貴司・藤岡真実・浅野房世
東京農業大学大学院農学研究・東京農業大学農学部バイオセラピー学科

An autonomous aid by the horticultural therapy in 14 years-old boy's visit

Hiroshi Masuda, Mami Fujioka, Tuyoshi Minei, Msako Utida, Tkashi Wakano Fusayo Asano
The Tokyo University of Agriculture graduate school agriculture research ·
The Tokyo University of Agriculture agricultural department biotherapy subject of study

Keywords: Being home, horticultural therapy, autonomy, autonomy measure

キーワード: 在宅, 園芸療法, 自律, 主体性尺度

要旨

今回、園芸療法実習において、脳腫瘍術後、気管切開に至った14歳男児に対し、在宅で自律の促進を目的に園芸療法を行った。T児の活動における主体的行為を自律の萌芽と考え、園芸療法を実施することによって、それがどのように変化していくのかを主体性尺度(浅海・野島,2011)で評価した。その結果、日常的に援助を受ける患児が能動的に植物を育て始めた。自ら目標をかかげ、それを完遂していきたいという主体性が見られ、自律の萌芽と判断できた。園芸療法により、自律の促進する可能性を示唆した。

Abstract

This time, in horticultural therapy training, I carried out horticultural therapy for the purpose of autonomous promotion by being home to the 14 years-old boy who resulted in after the operation brain tumor and a tracheotomy. I evaluated it with an "autonomy measure" (Asanami, Nojima .2011), by regarding an independent act in the activity of the T as a portent of the autonomy, and carrying out horticultural therapy how it changed. As a result, the affected child who received help routinely has begun to bring up a plant actively. I advocated an aim by oneself, and independence of will to want to accomplish it was seen and was able to take it as a portent of the autonomy. By horticultural therapy, I suggested possibility to promote of the autonomy.

はじめに

今回、園芸療法実習において自宅で生活する脳腫瘍術後、気管切開に至った14歳男児を担当することとなった。

近年、厚生労働省の政策によりできる限り、住み慣れた家庭や地域で療養できるよう在宅医療提供体制が整備された。しかし、自宅に戻っても、意思伝達手段が困難で、能動的に自らの思いを伝えたりすることや環境へ働きかけたりすることが難しい子どもは、日常生活が受容的で「できる能力」が「できない、制限された能力」へと移行し、身体・精神機能面の低下(二次的障害)を速めていることがある(鈴木等,2010)。本症例も、日常生活のほとんどを母親に依存し、生活環境が制限されていると思われる。T児の自律の促進を目的に在宅での園芸療法を実施した。

自律とは自分の行動や感情を自分がコントロールしている感覚と言われる。内発的動機付けについて研究してい

たデシ(1999)によると、人には自分の自律性あるいは自己決定の感覚を経験したいという生得的な内発的欲求があると述べている。それらの感覚により、自己を知り、確立していくのである。またそれらを促す支援者には「他者の視点にたつこと」と「選択肢を与える」、「決定させること」が重要だと述べている。T児の活動における主体的行為を自律の萌芽と考え、園芸療法を実施することによって、それがどのように変化していくのかを主体性尺度(浅海・野島,2011)で評価し考察していくこととした。

なお、本掲載内容に関し、母親より口頭で了承を得た。

1. 症例(14歳男児T)

1) 園芸療法導入の経緯と基礎情報

9歳の時、水頭症を併発しながら髄芽腫を発症し、A病院に入院した。1年間の治療生活を終え、Bリハビリテーションセンターで1年間の機能回復訓練を行い、自宅に戻った。自宅に戻るが特別支援学校の入学が認められず、自

2012年12月20日受付 2013年3月25日受理。

表 1. T 児の基礎情報 (聴取および質問用紙により)

①既往歴: 髄芽腫(水頭症併発), 細菌性髄膜炎, ウイルス性髄膜炎, 肺炎
 ②治療歴: 脳腫瘍摘出手術, 気管切開, 後頭部の骨部除去, 放射線治療
 ③後遺症: 両上下肢全廃, そしゃく機能喪失 ④保険区分: 身体障害手帳 1 級 1 種
 ⑤ADL: 機能自立度評価表 (FIM) 49/126 点 (運動 21/96 点, 認知 28/35 点)
 [食事] 経管栄養 (1 日 3 回) 学校では自助具を使い, ベースト食を始める
 [排泄] 全介助 (紙オムツ着) [入浴] 全介助 (自宅: リフト完備, 介助 2 名)
 [着脱] 半介助 (袖を通すことができる) [移動] 車いす (自走不可)
 ⑥日常生活: 父, 母, 祖母の 4 人家族. 今年度から特別支援学校に通い(吸引のため母親が同行, 帰宅後 16 時から入浴(訪問ヘルパー). 家にいる際, ほとんどベッド上で過ごす. 退院後も理学療法, 作業療法, 言語療法による機能回復訓練を隔週で行っている.
 ⑦禁忌事項: 感染の危険性があるものは使わない(土の使用の際は事前の許可が必要). 後頭部の骨がないため, 後ろに倒れないよう注意してほしい.
 ⑧園芸知識: 昔から祖母に連れられ, 公園に散歩に行く事や花屋で鉢ごと植物を買う事があり, 植物に触れる時間が多かった.
 ⑨家族の希望: 放射線治療により, 知的に問題が起こるか心配. 身体的にも精神的にも刺激を与えてほしい.

宅だけの生活となった。発症前に植物を一生懸命育てていたことから訪問学級の教諭のすすめで、園芸療法を紹介された。前任の園芸療法学生(以下、HTS)により、3 回のセッションが行われるが、肺炎を引き起こし、入院によって頓挫した。退院後、特別支援学校の入学が認められ、これを機に園芸療法が再開された。

現状では病院と連携をはかることは難しく、患児の情報(表 1)は母親からの聴取と担当医、作業療法士、理学療法士への質問用紙により、収集した。

2) 園芸療法所見

(1) 第一印象

身体的な動きは少ないものの、意識ははっきりしている。意思疎通が難しい。

(2) 問題点の焦点化

重度の身体障害があり、生活のほとんどを母親に依存している。自分の意思で行動し、自分で何かに取り組むことが極めて少ない。

2. 方法と結果

1) 期間および活動の場

プログラムは X 年 4 月 7 日～X+1 年 4 月 26 日までの約 1 年間に計 29 回行った。園芸療法の実施は主として 15 回まで HTS2 名で実施し、16～29 回は HTS1 名で実施した。園芸療法士(以下、HTR)は初回面接を含め、計 3 回訪問し、HTS の指導と観察を行った。

T の自宅はマンションの高層階にあり、周囲には植物の植えられた遊歩道や 50m 間に国営公園がある。開始当初は車いすに付属可能な机を使用していたが、T を囲って作業を行うことに、閉塞感があり、車いすから降りて作業することを提案した。居間には高さ 80cm 程の細長い作業台があり、畳の部屋には高さ 30cm 程の木造の机がある。居間では、丸いすや背もたれのある椅子に座り、畳の部屋では T が胡坐をかいて座った。HTS が転倒防止のため、後ろから補助に入った。

2) 記録および評価

記録は SOAP(Subjective Data, Objective Data,

表 2. 評価基準表

点数	自発性	自己決定	自己表現
+2	意欲的に行い、作業に工夫が見られる	悩みながらも自分で決める	見通しを持って自分の考えを表示する
+1	意欲的に作業を行う	人に左右されずに決める	自発的に自分の思いや考えを表示する
0	受動的であるが、常に集中している	選択肢の中から決める	自発的に意思表示する
-1	受動的であり、集中していない時がある	人に促され、決める	質問に対し、何かを訴える
-2	単に作業をこなす。	はい、いいえだけを示す	質問に対し、返答しない

Assessment, Plan)で行った。SOAP とは、主観的情報と客観的情報をもとにした記録方法の 1 つである。日本でも医師、看護師、リハビリ分野において一般的に使われている (Kettenbach.2008)。

評価は主体性尺度(浅海.1999)を利用した。浅海はアンケート調査をもとに子どもの主体性を検討している。小学 5 年生から中学 3 年生の思春期にあたる子どもを対象とし、本患児にも担当している。主体性には 3 つの側面があり(浅海・野島.2011)、①態度・行動面での自発性と②自らの方向性を定める自己決定、そして③それらを外界に向けて表現する力(自己表現)が主体性を考える上で重要な要素となると述べている。筆者はこの 3 つの項目に対応させ、基準表(表 2)を定めた。

3) 結果

評価基準に基づき、25 回のプログラムを患児の対応から 3 期に分けて分類した(表 3)。

(1) 前期: 自分で何かに取り組むきっかけを作る

4/14 ラッディッシュスープ作りでは試食時に介助する母親からスプーンを奪い、自分で口に運び、飲んでいた。4/28 5 種類の種(ゴーヤ、ヒョウタン、トマト、ヒマワリ、アサガオ)からゴーヤとヒョウタンを選び、種まきをした。その際、HTS は緑のカーテンの写真を見せて「作ろうね」と提案した。5/11 4/28 に播いたゴーヤとヒョウタンが発芽しなかったため、再挑戦した。赤玉土の入ったペットボトルを振って遊んでいたため、母親に腕をつかまれ、種まきをさせられた。5/25 植え付け前のロックウール苗を転がして遊んでいた。植え付けは無理だろうと判断し、母親が作業していたが、T がラベルを挿そうと丸椅子から落ちそうになるくらい手を伸ばしたため、母親が「やりたいよね」とプランターを T に近付けた。母親が穴を掘り、そこに T がロックウール苗を入れた。6/1 フラワーアレンジメントに対し、特にこだわりもなく、ただ作業をこなしていた。HTS にミントの匂いを嗅がされるが、口の動きで「やめて」と拒否した。6/22 多肉植物を見せるとすぐに手に取るが、あまり興味は示さない。HTS に「生きてるんだよ」と言われるともう一度手に取りじっくりと観察した。緑のカーテンについてのイメージを HTS にジェスチャーで伝えようとした。6/29 母親に促され、はじめて文字盤を使用し(ゴーヤとヒョウタンの水やり)、「むずい」、「できない」と HTS に不安を訴えた。7/14 T と母親、HTS の 4 人で組み立て前のレイズドベッドの色塗りを行

った。自分の担当分を塗り終わると、周囲を手伝う程、意欲が高かった。途中で塗料が無くなり、作業終了を促すも、まだやりたそうな様子を見せた。7/21セッション終了を促しても、次に使う絵の具を出し続け、汚れた自分の手を見て笑っていた。7/28 HTS がネットを取り付け、自分の背丈よりつるが伸びたゴーヤの全貌を観察し、HTS に文字盤で「ラベルを作ってあげなきゃ」と意思表示した。

(2) 中期：自分の意思で行うことを増やす

8/11 できたラベルを HTS に指示を送り、窓に貼りつけた。HTS に多肉の根が伸びていると伝えられると、文字盤で「霧を吹きましよう」と訴えた。8/25 母親が活動前に収穫したゴーヤを手渡すと、手や顔にこすりつけ、感触を楽しんでいた。9/8 蚊に刺されてしまい、作業に集中できなかった。時間内では作品が終わらず、母親の促しで HTS に道具を借りた。9/22 試食の際、ストローで一気に飲みほした。笑いながら「苦かった」と感想を述べた。10/20 ネットにからまったヒョウタンが目の前に置かれると、説明なしに収穫し始めた。終了後、HTS の実家の話題で文字盤を使って会話した。11/3 ドングリを拾い、帰るよう促されると顔が曇り、公園を一周しようかと提案されると大きく頷いた。ドングリに関し、文字盤で「クリスマスリース、11月にやりたい」と訴えた。11/10 集中して作業を行い、完成すると、2枚目にとりかかった。終了後、文字盤で「もっとはりたい」と訴えた。11/17 作業後、HTS がクリスマス用にしようかと提案した。文字盤で(材料集めを)、「今度の休みに〇〇公園でとれる」と返答した。1/19 家族と HTS の都合により 60 日ぶりの活動となった。リースを落としてしまったこと、リハビリで寄りかかって立

てるようになったことを話題に HTS と文字盤で会話した。母親に促され、作品を学校の担任教諭に見せることを決めた。1/26 作業中、母親から最近、T が担任やヘルパーにイチゴを育てたいと訴えていると HTS に伝えられた。HTS が確認すると、大きく頷いた。終了後、はじめて作品に「もぐらさん」とタイトルをつけた。

(3) 後期：自分の意思を示し、能動的に取り組む

2/2 イチゴの管理ノートに色鉛筆で「やめる、気が変わった」と書き、作業をやめた。母親が担任教諭から難しいと言われたと HTS に伝えられた。母親と HTS に促され、挑戦することを決めた。自分で休日に水やりを行うことを目標とした。2/16 休憩を取りつつ、移植ごてで土をプランターに移した。時間をかけながらも全ての作業を一人で行った。3/1 パソコンで作ることを決め、マウスで何度も写真を並び替えながら作業を行った。3/8 左手でいちごを支え、右手で藁を丁寧に引いた。終了後、笑顔で「まだ、完成してない」と訴え、収穫を楽しみにしている様子であった。3/15 「トマトとピーマンを植えようと考えている」と文字盤で HTS に示した。いつから考えてたのか聞くと、「前から、言わなかっただけ」と返答した。4/5 いちごを収穫できたら(みんなに)「平等に分けて食べたい」と文字盤で示した。作業終了後、母親から最近ピアノをひいていると HTS に伝えられ、T が HTS に披露した。4/12 スペースの問題から 1 種のみ種まきするよう促すが、「両方やりたい」と訴え、母親が 2 種とも種まきすることを承諾した。4/26 HTS がラミネーターの準備をし終わると、理解している様子で使い始めた。

表 3. プログラム内容と T の様子、作業場所および姿勢

回数	日付	プログラム内容	T の作業の様子	HTS と T の意思疎通の様子	作業場所/姿勢
1	4/7	顔合わせ	周囲の会話を黙って聞いている	声かけに対し、笑顔で応える	居間/ベッド
2	4/14	ラディッシュスープ作り	クッキングペーパーの芯で HTS の顔をたたいて遊ぶ	質問に対し、指をさして答える	居間/車いす
3	4/28	種当てクイズ、ゴーヤとヒョウタンの種まき	クイズと種の音、感触に興味をもつ	種袋の上に種を置いてクイズに答える	居間/車いす
4	5/11	ゴーヤとヒョウタンの種まき(再挑戦)、ラベル作り	手を握るなど母親に甘える	質問に関し、口の動きで返答する	居間/車いす
5	5/25	ゴーヤとヒョウタンの植え付け	ロックワールを転がし遊ぶ	質問に関し、母親に代弁される	外(ベランダ)/丸いす
6	6/1	フラワーアレンジメント	花ではなく箱に興味をもつ	質問に関し、母親に代弁される	居間/丸いす
7	6/22	多肉植物の試験管づくり	ジュエルポリマーの手触りに興味をもつ	質問に対し、イメージを体で表現する	畳/胡坐
8	6/29	ペットボトルの給水機作り	HTS とじゃれて遊ぶ	母親に促され、文字盤で返答する	畳/胡坐
9	7/14	レイズドベッドに塗料塗り	刷毛で塗る動作を楽しんでいる	質問に対し、口の動きで返答する	外(遊歩道)/車いす
10	7/21	レイズドベッドに葉っぱのスタンプ	赤、黄、緑の絵の具に興味をもつ	母親に促され、文字盤で返答する	畳/胡坐
11	7/28	レイズドベッド設置	HTS とデジカメで写真を撮り合って遊ぶ	文字盤を要求し、短文を作る	庭前/車いす
12	8/11	大きなラベル作り	色半紙をちぎる作業に集中する	文字盤を要求し、返答する	畳/胡坐
13	8/25	多肉植物の植え替え	3色のゼオライトを混ぜて楽しむ	HTS に促され、文字盤で返答する	畳/胡坐
14	9/8	エコバックに藍のたきぞめ	かゆさが気になって集中できない	HTS に促され、文字盤で返答する	外(遊歩道)/車いす
15	9/22	ゴーヤシェイク作り	嬉しそうにスナック菓子を食べる	HTS に促され、文字盤で返答する	居間/車いす
16	10/20	ヒョウタンの収穫	ヒョウタンの匂いや感触を楽しむ	文字盤を要求し、HTS と会話する	居間/胡坐
17	11/3	公園で秋散策	どんいっぱいに詰まったドングリを大事そうに抱く	HTS に促され、文字盤で返答する	外(園芸公園)/車いす
18	11/10	落ち葉のスタンドグラス	葉っぱの速い興味をもつ	文字盤で短文を作る	畳/胡坐
19	11/17	ドングリのリース作り	台紙をドングリでいっぱいすることに集中する	文字盤で短文を作る	畳/胡坐
20	1/19	押し花のスタンドグラス	押し花を並べることに集中する	文字盤で HTS と会話する	居間/椅子
21	1/26	芝人形作り	作品の出来栄に満足する	文字盤で短文を作る	居間/椅子
22	2/2	管理ノートづくり	作業を途中でやめる	筆談で、HTS と会話する	居間/椅子
23	2/16	イチゴの植え付け	苗をポットからたす作業をやりたいと訴える	HTS に促され、文字盤で返答する	居間/胡坐
24	3/1	パソコンでアルバムの表紙づくり	今までの活動の写真を楽しそうに見る	質問に対し、パソコンに入力して返答する	居間/椅子
25	3/8	アルバム作り、イチゴの葉引き	無理やり体を動かす、プランターいっぱいに葉を引く	HTS に促され、文字盤で返答する	居間/胡坐
26	3/15	イチゴの育て方をパソコン検索	パソコンで検索するのを楽しむ	質問に対し、パソコン入力して返答する	居間/椅子
27	4/5	イチゴの追肥・人工授粉	両手を使い、丁寧に藁の下に肥料をまく	文字盤で HTS と会話する	居間/胡坐
28	4/12	トマトとピーマンの種まき、画像検索	ポットに土を入れるのに集中する	文字盤で HTS と会話する	居間/胡坐
29	4/26	ラベル作り	絵を描くことを楽しむ	文字盤で HTS と会話する	居間/椅子

考察

計 29 回のプログラムを行い、SOAP をもとに主体性の 3 項目を採点し(図 1)、それらの素点を合計したものを主体性尺度と考えた(図 2)。なお、1 回目は作業を行わなかったため未評価とした。

前期では 9 回目、11 回目を除き、低い点数を示していた。T は開始当初より非言語的に意思表示が見られていた。そこで T の参加できるようなプログラムを模索し、野菜や花、多肉植物を活用した。その結果①植物は幼少期から馴染みがあり、祖母の影響が強い、②種、赤玉土、ジュエルポリマーなどの感触や音に興味を示す、③赤、黄色、緑など原色を好む、④香りのする植物を拒む、⑤(見本がない)イメージをすることが難しいことが分かった。全体を通してその年齢よりも知的に低い傾向がある。

9 回目にはじめて T が好むプログラムを提供できた。11 回目的際、母親の「この前、活動日を間違え、まだ来ないのでって言ってたんです」という発言からも活動を楽しみはじめた様子が窺える。また、緑のカーテンの写真を見せたことにより、イメージすることができ、作るという目的を HTS と共有することで関係性を築き、自分の意思を示すきっかけとなったと考える。

中期に入るとマイナスが少なくなり、高い点数を示すようになった。プログラムでは世話や収穫、料理、工作など様々な植物の関わり方ができるようにした。また、T の提案に対し、前期の結果を踏まえ、時間をかければ一人で作業を完遂できるように工夫した。言語療法により、文字盤を使用ができるようになり、T が自分の意思を示すことが多くなった。その思いを HTS が汲み取りプログラムに反映していくことで、何かしたいという提案が増えていった。T が自己表現できる場が整い始めたと考える。

後期では、安定して高い点数を示すようになった。自分自身で考え、目標をもってイチゴを育てることを決めた。今までの提案とは異なり、自分の欲求のみならず、自らに責任をかけるプログラムであった。水やりを目標にしていたことから窺える。それに対し、HTS はより能動的に植物を育てることを促すため、興味の高いパソコンを使い、自分で育て方を調べる時間を設けた。結果、前期に育てたゴーヤとヒョウタンとは異なり、祖母とともに水やりをすることが増えたと母親から報告を受けた。日常的に援助を受け、生活が受動的になっていた T が能動的に植物を育て始めたと考える。また、植物だけでなくパソコンやピアノを母親に要求し、1、2 時間、ひとりで調べたり、練習したりすることが増えたと報告をうけた。セッション時以外でも、普段の生活の中で能動的に取り組むことができ始めたと考える。

在宅という環境では植物が育つことによる環境の変化だけでなく、自然に人的環境である家族も巻き込まれていく。在宅が家族の生活空間であることや患児が育てることを決めても、日々の世話など家族の援助なしでは困難であるからである。しかし、自らが周囲の環境に働きかける感

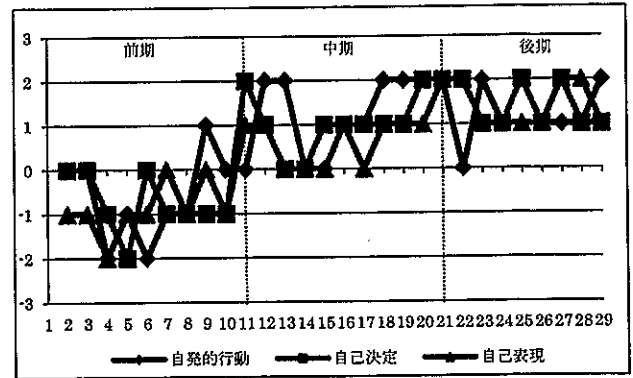


図 1. 自発的行動、自己決定、自己表現の点数表

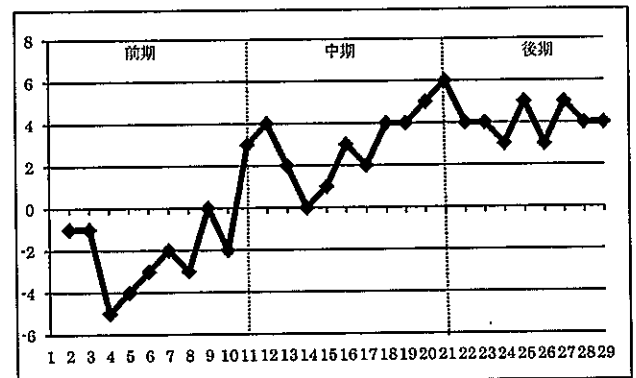


図 2. 主体性尺度表

覚は、自信につながり、やがては他の興味の対象に派生していく。イチゴを育てたいという行為は自ら目標をかけた、それを完遂していきたいという主体性が見られ、自律の萌芽と判断した。

支援者である療法士が、対象者の思いを汲み取り、植物への多様な関わり方という選択肢の中から対象者が自分で決定できるような環境を整えていくことにより、自律を支援することができるのではないかと考えた。園芸療法により、自律の促進の可能性を示唆した。

引用文献

- 1) 浅見健一郎：子どもの「主体性尺度」作成の試み。人間性心理学研究。17(2)：154-163。1999
- 2) 浅見健一郎・野島一彦：臨床心理学における「主体性」概念の捉え方に関する一考察：Kyushu University Psychological Research。2：53-58。2001
- 3) エドワード・L. デシ・リチャード。フラスト(桜井茂雄訳)。人を伸ばす力 内発と自律のすすめ。pp21-77。pp197-266。新曜社。1999
- 4) GingeKettenbach(柳澤健監訳)：理学療法・作業療法の SOAP ノートマニュアル原著第二版-問題志向型診療記録の書き方。協同医書出版。2008
- 5) 鈴木麻里・宮久智寛・山下孝志：意欲的活動によって身体・精神機能面に変化のあった症例。重症心身障害療育学会誌。21：22。2010